

令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	学年	3年	類型	カレッジコース
教科書	東京書籍 日本史探究			副教材	東京書籍 要点マスター 日本史探究 整理と演習				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				知	思	主		
1 学期	4		4 鎌倉の仏教と文化		◎	○	学習のねらい 中世から近世への時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察する。幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解する。近世の幕末期から現代までを扱い、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察し理解する。	
		2 節 武家支配の広がり国際交流	1 南北朝の動乱と室町幕府の成立		◎	○		
	5			2 倭寇と東アジア国際交流	◎	◎		
				3 室町時代の社会と経済活動		◎		○
				4 自立する戦国大名	◎			○
				5 室町文化	◎	◎		
		第3編 近世の日本と世界	第1章 近世社会の形成	1 地球的世界の形成と日本 2 鎌倉政権による全国統一 3 桃山文化		◎		○
	6		第2章 歴史資料と近世の展望	1 参勤交代と幕藩体制 2 百姓たちの生活世界 3 江戸時代の対外関係	◎	◎		
			第3章 近世社会の展開	1 江戸幕府と大名・朝廷 2 近世の身分と人々の暮らし	○	◎		
			1 節 幕藩体制の確立	3 アジアのなかの幕藩体制 4 武断政治から文治政治へ 5 幕藩体制下の社会の発展		○		◎
			2 節 近世社会の成熟と幕藩体制の動揺	1 享保の改革と経済の発展 2 近世社会の成熟と危機の始まり		◎		○
	7					◎		◎
第4編 近現代の地域・日本と世界		第1章 近代社会の幕開け	1 開国と開港 2 幕府の崩壊と明治維新		○	◎		
		第2章 歴史資料と近現代の展望	1 資本主義の発展と生活 2 国民国家と政治参加 3 世界のなかの近現代日本		◎	○		
2 学期	8		第3章 近現代社会の展開	1 制度改革と殖産興業政策 2 文明開化と教育制度の整備	○	◎	評価の観点 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。	
	9			3 東アジア世界のなかの明治政府	◎	○		
				4 政府専制への批判		◎		○
		2 節 国民国家と資本主義の成立	1 立憲政治の成立	◎		○		
	10			2 対外関係の変容と日清戦争	◎	◎		
				3 産業革命と資本主義の定着	◎	◎		
				4 教育制度の整備と新しい文化		◎		○
				5 日露戦争と帝国日本 6 日露戦争後の社会と政治	◎			○
		3 節 両大戦間期の日本	1 工業化・重化学工業化と生活の変化	◎	◎			
	11			2 政党政治とデモクラシー	◎			○
				3 国際社会のなかの日本	○			◎
		4 節 第二次世界大戦と日本	1 昭和恐慌と立憲政治の動揺 2 中国侵略と戦時体制への移行	◎		○		
			3 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開	◎	◎			
12		5 節 占領と改革	1 占領と日本国憲法の成立 2 冷戦の開始と経済復興	○		◎		
		6 節 国際社会への復帰と高度経済成長	1 国際社会への復帰と対米協調 2 高度経済成長		◎	○		
		7 節 アジア情勢の変化と経済大国日本	1 1970年代の国際社会と日本 2 安定成長への転換	◎		○		
3 学期	1	8 節 新しい国際秩序と日本の課題	1 激変する世界と日本 2 21世紀の日本	○		◎	主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、生徒自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	
		第4章 現代の日本の課題の研究	1 社会的集団と個人 2 世界のなかの日本 3 伝統や文化の継承と創造		◎	○		
		歴史に学ぶ	1 地震と日本人 2 感染症の歴史 3 歴史のなかの男性と女性	○		◎		
				◎	◎			
	2							
3								

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【日本史探究の勉強方法の特色】

- 日本史探究では、日本の文化や生活がどのように成立・発展し、現在の日本を形成してきたのかを学びます
- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。
- 日本の文化や社会の発展に興味を持ち、理解するように努力しましょう。

【授業】

- 授業では以下のことに注意してください。
 - 1 教科書を何度も読み、興味や疑問を持ちましょう。
 - 2 基本的用語については、調べて、その意味を確認しましょう。
 - 3 ノートをきれいに整理し、理解しやすいように努力しましょう。

【家庭学習】

- 教科書を繰り返し読みましょう。
- 理解できない用語は、辞書等で調べてみましょう。
- ノートは自分で工夫して、理解しやすいように工夫しましょう。
- 授業等で感じた疑問は、必ず調べたり、質問して理解するようにしましょう。

【定期考査】

- 教科書・ノートを繰り返し読みましょう。
- 重要な語句は、覚えるように努力しましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から 総合的に評価します。	
評価の規準	1 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均